

再質問の方式
1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

## 小平市議会定例会一般質問通告書

### 質問件名 外国人も暮らしやすい小平に

**質問要旨** 令和2年1月時点の市内の外国人住民は5,451人で、外国人人口割合の2.8%は、多摩26市中で2番目に高い値です。今後、小平市で策定すべき多文化共生プランが、市内の外国人の方々が抱える多様な問題に対応できるものとするよう、以下質問致します。

1. 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として、市内で令和2年8月に受付終了した特別定額給付金を申請しなかった人のうち、外国人はいましたか。いた場合は、その人数をお教えてください。
2. 生活保護受給者のうち、外国人はいますか。いる場合は、直近の人数とその方々の在留資格をお教えてください。
3. 市内の国民健康保険の加入者のうち、外国人はどれくらいいますか。直近の人数をお教えてください。
4. 白梅大学内の研究会が、今年7月に行った「小平市の外国籍住民の意識調査」で、回答した87名の外国人のうち、半数近い49.4%が日本語に困ることがあると回答し、そのうち44.2%の人が、役所や病院での説明を理解するのに困ることがある、と回答しました。また、小平市で生活していく上で、どのような情報が必要だと思うかという設問に対して、43.2%の人が「医療や健康保険に関する情報」と回答しています。役所や病院での説明を理解するのに困ることがある、あるいは医療や健康保険に関する情報が欲しい、という外国人の方々の声に対して、小平市としてどのように対応すべきと考えますか。
5. 白梅大学の上記調査で、「あなたやあなたの家族が日本の生活で困っていることや不満なことがありますか」という設問に対し、18.2%の人が「日本人からの偏見・差別」と回答し、「地域社会の一員として、あなたが日本人に望むこと」として、44.3%の人が「偏見や差別をなくしてほしい」と回答しています。市では、人権上の問題について、原則第3金曜日の午後1時30分から4時まで、人権擁護委員による人権相談を行っています。過去5年間で、外国人の方からの相談はありましたか。あった場合は、年ごとの件数をお教えてください。また、外国語での相談も受け付けるなど、外国人の方が安心して相談できる体制は整っていますか。
6. 今年6月の市議会定例会の一般質問のなかで、令和5年度からの文化振興の基本方針を策定する中で、多文化共生の専用のプランをつくるかどうかということも含めて今後検討するのご答弁がありましたが、多文化共生プランを策定する際には、外国人の方々の意見はどのようにして取り入れていくのか、お教えてください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 3年 11月18日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ